

日々成長

はまなす幼児センター父母会 会長 岩淵 元

はまなす幼児センター父母会々長を務めさせていただいてから一年が経とうとしています。色々な制限があつた中でしたが、夏祭りや運動会、生活発表会や餅つきなど、園長先生をはじめ先生方、役員の皆さん、保護者の方々のご協力があり、無事終えることができました。この場をお借りして感謝申し上げます。

入園してから卒園を迎える子どもたちの成長していく姿を見てきて、私はすごく感動させられます。毎日の園での集団生活で、色々なことに興味を持ち、様々な経験を積んで毎日成長しています。そのような日々の成長は早く、びっくりします。

我が家は農業を営んでいるため、三人の子どもたちは早いうちからはまなす幼児センターにお世話になっております。長女は一歳の時、一年間だけ中央幼児センターにもお世話になりました。今は、上の二人ははまなす幼児センターを卒園し北辰小学校へ、次女はりんご組です。初めてはまなす幼児センターに通い始めた頃が思い

出されます。入園当初は、行きたくないと泣いていましたが、先生方が一人ひとりと丁寧に向き合ってくださったおかげで、年少さんになる頃には、「まだ帰りたいくない。」というほど心も体も大きく成長しました。



はまなす幼児センターのクラス名には果物の名前が付いています。その果物の大きさが、子どもたちの成長に繋がっていることは、親として嬉しく、次女が春からメロン組になるのを心待ちにしています。子どもたちは、自分の力で自分の得意を見つけ、それを伸ばしていく楽しみを知り、気が付くとたくさん思い出が生まれました。

子育てをしていく中で、子どもの好奇心に寄り添いながら遊びを通して学ぶということが、行事はそれを実施することが目標ではなく、そこに向か

たくさんの学び

北辰小学校 教諭 大山 風花

昨年の四月から始まった教員生活は、毎日があつと言う間に過ぎていきます。教員一年目、社会人一年目、一人暮らしも一年目と初めてづくしで、不安と期待で胸いっぱいこのスタートを切りました。

四月になり、子どもたちが登校してくる始業式を迎え、緊張と不安の中、子どもたちと初対面しました。子どもたちの一言目から元気が伝わってきて、「この子どもたちと今日から学んでいくんだ。」と実感し、やる気が湧いてきました。保護者や地域の方、職

場の先生方と出会い、「子どもたちの前に立つても恥ずかしくない大人であらう。」という思いだけでなく、「常に教員として在るべきなんだ。」とい

うために取り組む過程の中に大きな宝物が隠されていることを教えていただきました。これから先、子どもたちの生活は様々な変化していくと思いますが、この園で学んだことを生かして、日常に楽しみを見出し、心豊かに育つと信じております。

最後になりますが、はまなす幼児センターのますますの発展を祈念するとともに、皆さんのご協力を賜り、会長の大役を務めることができ感謝しております。

本当にありがとうございました。

うことも考えさせられました。

夏でも冬でも関係なく、外で遊ぶのが大好きな子どもたちの姿に、いつも元気をもらっています。日々、けんかと仲直りを繰り返し、大人では図れない、子どもたちなりの感情の機微に右往左往しており、ようやくわかってきた頃には、成長しているなんてことも度々あります。子どもたちに振り回される毎日ですが、近くで成長を感じられる事は素敵なことだと思います。

どんな授業であつても、仲良く、楽しんで取り組むことを目標にこれまでやってきました。「楽しい授業って何だろう。」と考え、はじめは子どもたちが笑顔で「楽しい。」と言って授業が終わることだと思っていました。

しかし、子どもたちの表情や様子を見ていると、知らなかったことを知る瞬間、出来なかったことが出来るようになった瞬間、子ども自身の疑問がクラス全体の疑問になり、クラス全員で解決するために考えている時間などが楽しいことだと感じました。教員として、毎日が驚きと発見ばかりの子どもたちに、どんな風楽しんでもらうかを考え、実践してきました。

子どもたちと一緒に学ぶことや子どもたちのために学ぶことなど、毎日が学びの連続です。子どもたちのためにどれだけ努力できたかが、子どもたちの反応を通して返ってくる職業だと感じます。より良い授業を目指して、子どもたちのために何ができるかを考え続け、学び続けたいと思います。

この先、絶えず研修に努め、子どもたちのために全力で頑張ります。また、保護者の皆様や地域の方々にお世話になる機会があると思いますので、今後共よろしくお願い致します。

体験学習を充実させて

西陵小学校 教頭 藤村 輝之

「十三歳、真夏の冒険」と実況されたのは、昨夏開催の東京オリンピックで新種目スケートボードに出場した西矢栳選手が金メダルをとる瞬間でした。国内最年少でのメダル獲得にわき上がりました。西矢選手については、後に練習方法や取組の姿勢が公表



されました。お兄さんが滑る姿を見て、小さい頃から技を習得するため、常に真剣に向き合って練習を重ねてこられたそうです。また、競技として練習に打ち込むだけでなく、「ほかの人と滑ることが一番楽しい。」と話すほど、心の底からスケートボードを楽

しめる気持ちが彼女の強さの土台となっていることを知りました。

昨年は、コロナ禍で様々な行事や活動を進めるにあたって工夫すること余儀なくされました。五年生の宿泊研修の引率で黒松内のブナ林を散策してきました。暑い季節の中、山林や谷のトレッキングは大変厳しいものでしたが、「こつちの道が通りやすいよ。」と誘導し合い、倒木や枝をよけながら歩くので「僕が押さえておくから下をくぐって。」と、自然の中で力を合わせて乗り越えることを学びました。真剣にゴールを目指すときに達成しようと生み出される力の強さ、素晴らしいさを見ることができました。

また、地域の皆様には、本校の畑おこしや五年生の稲作体験など、多くの体験活動をお手伝いいただいております。さらに、J A青年部の皆様には、スイカ・メロンの栽培をはじめ、三年生の合同学習で選果場の案内をしていただくといった共和町ならではの体験をさせていただいております。ふるさと共和町のあたたかさを心から感じることができました。

後期の学校評価保護者アンケートで、次年度学校に期待する活動(取組)を調査しました。ランキングの一位に「体験的学習活動」、二位に「マナーやモラルの指導」、三位に「体力・運動能力の向上」があげられました。

子ども達は、経験上の選択肢を多く持っています。人とのコミュニケーション

ションによって生まれる気づきや、何か新しい発見ができる場面に遭遇することが大切だと感じています。学校の体験的学習活動を通して、「なんだかやってみたいな」と思わせる仕掛けとアイデアを職員間でも出し合っていていきたいと思えます。これからも、仲間・友達と重ねる経験が心から楽しいと思える出来事を少しでも築いていけるよう、地域の皆様と共に努力していきたいと思えます。

